NPO地球の緑を守る会/〒158-0097世田谷区用賀4-34-12グリーンハウスNo.2—231号/Tel:03-5717-9358Fax:03-5717-9359/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成23年（2011）1月10日
No.37
発行　高津啓洋

謹賀新年

あけましておめでとうございます。パンタナールのパラグアイ川のゆったりとした流れに、朝日が昇る、新しい朝の様子です。（二枚の写真）

シュウダレステ育苗所を拡充

パラグアイの第二の都市シュウダレステには、現地財団法人の協力を得て、育苗所が開かれています。高津啓洋代表が懇意にしておられる、宮脇昭横浜国大名誉教授の語られる、土地本来の木々を中心に種からの苗木作りが行われています。一昨年は5000本を調達して植林、昨年も5000本を植えました。常時8000本ほどの苗木を育てています。

元々、シュウダレステ周辺は、開墾されるまでは広大なジャングル地帯でした。

特にこの地を切り拓いたのは、日系人の開拓移民でした。現在、パラグアイの農業を支えているのは、日系人の働きによるところが大きいのです。

2年前に、青年ボランティア隊が訪問した時に、日系人の方から、「地球温暖化が今、問題になっているけれど、ここのジャングルは、大豆と小麦畑のために切り拓いた我々の責任の大きさを感じている」と、私達の植樹活動に賛意を表してくれました。

また牧畜のために、世界で最も森林伐採が行われてきたのも、ここパラグアイです。そのために、国を挙げて植林に取り組もうとしています。

400本の森づくり

一度失われた森の復活は簡単ではありませんが、私達は10年間、パンタナールの森再生のために植林をしてきました。特にインディオの人たちは焼き畑をしたりで、必要以上に森を燃やすこともあります。火が消えるまで3日、4日と燃え続けます。

また、牧草地として利用が終わり、打ち捨てられた土地に植林を

進めています。2年前のボランティア隊が植林した木も、順調に育っています。樹種はニームの木です。この木は2年間に6メートルにもなるほどです。（上の写真）

個人やグループで400本の植林を目指して名前の付いた森作りを目指しています。多くの方の参加を希望します。

[お知らせ]2011年カレンダーは、好評につき売り切れとなりました。2012年もさらに良いものを作るべく、撮影再開です。